St. Luke's International University Repository

聖路加国際大学におけるオンライン学修支援サービスの試み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): Online Learning Support for Students, Learning Commons, Higher Education 作成者: 川口, 嘉奈子, 松本, 直子, Kawaguchi, Kanako, Matsumoto, Naoko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00016578

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

短　報

聖路加国際大学における オンライン学修支援サービスの試み

川口嘉奈子　　松本　直子

Trials of Online Learning Support Services at St. Luke's International University

Kanako KAWAGUCHI　　Naoko MATSUMOTO

〔Abstract〕
At St. Luke's International University, face-to-face learning support services in Learning Commons have been converted to totally/partially online services to address the needs arising from the educational changes due to the COVID-19 pandemic. In this paper, we compare the current usage of these services with the usage before the changes and describe the current issues of academic support at the university. In addition, we report the positive functions of the "Rukako Desk," which was formed to expand the student support services at the beginning of the 2021 academic year, the importance of letting students know about the services, and the efforts made to enable students feel closer to the desk.

〔Key words〕 Online Learning Support for Students, Learning Commons, Higher Education

〔要 旨〕
聖路加国際大学では，コロナ禍を契機とした教育の変化に対応し，従来はラーニング・コモンズにおいて対面のみで行っていた学修支援サービスを全面オンライン化，あるいは対面とオンラインの併用へと変更した。本稿では，学修支援サービスの利用状況をオンライン化前後で比較し，本学での学修支援サービスの運営に関する現状の課題を述べる。さらに，学修支援サービスの強化を目指して2021年度から設置された「るかこデスク」の概要と，学内で果たす役割について述べ，コロナ禍以降，教育のオンライン化が進んだ状況で，学生が学修支援サービスの存在を認知し，身近に感じるための取り組みについて報告する。

〔キーワーズ〕 オンライン学修支援，ラーニング・コモンズ，高等教育

Ⅰ．はじめに

聖路加国際大学（以下，本学）学術情報センターは，図書館と学習コミュニティ支援室で構成されている。後者は，学術情報とICTを活用したアクティブラーニングを推進するために，大学本館3階のラーニング・コモンズ（Learning Commons，以下，LC）の運営・管理，LCを拠点とした学修支援サービスと，生涯学習の基礎となる学術的な情報リテラシー獲得を目指した授業を担当している[1) 2)]。

本稿では，まず2020年から続くコロナ禍の影響により，従来は対面のみで行っていた学修支援サービスをオンライン化，ないし対面とオンラインの併用へと変更したことによる利用状況の変化を報告する。また，オンライン化前後の比較により明らかになった，本学のオンラインによる学修支援サービスを運営する上での課題について述べる。

さらに，学修支援体制の強化を目的として2021年4月から設置された「るかこデスク」が学内で果たす役割を示し，コロナ禍以降の教育のオンライン化が進んだ状況

聖路加国際大学学術情報センター・St. Luke's International University, Center for Academic Resources

受付　2021年10月20日　　受理　2021年11月16日

で，学修支援サービスの存在を学生が認知し，身近に感じるための取り組みについて報告する。

Ⅱ．ラーニング・コモンズを拠点とした学修支援

1．学修支援サービスの窓口

LC を拠点とした学修支援サービスの窓口として，「学修支援カウンター」と「るかこデスク」がある。

学修支援カウンターは，LC のコモンズ302内にある，学習コミュニティ支援室の職員が常駐する窓口の名称である。2017年 3 月の LC 開設と同時に設置され，各種サービスの受付等を行ってきた。2019年度からは上記の機能に加え，大学での学修に関わる予約制の個別相談「学修支援カウンター相談」を開始し，2021年度からのオンライン化に伴い「るかこデスク」に名称を改めた。

るかこデスクは，学内にある10の学生相談窓口（総称「ルカの窓口」）の一つとして位置付けられており，前述の「学修支援カウンター相談」の利用が少なかったため，受け付ける質問をあまり限定せず，間口を広く設定している。具体的には Word，Excel，PowerPoint に関する簡易的な質問，Google ドライブや Zoom などの学内でよく使用されるツールに関する質問，統計ソフトの使用に関すること，文献リストの作成や引用の仕方についての質問を受け付けている。この他，どこに問い合わせればいいかわからない学習に関する質問をしてもよいとし，適切な部署につなぐ役割も担っている。

事前予約制のるかこデスク開始後も，ラーニング・コモンズ内の学修支援カウンターにおいて，同種の質問や相談を並行して受け付けている。

2．学修支援サービスの種類と概要

LC を拠点とした学修支援サービスには，この他に，①アカデミック・ライティング・デスク（Academic Writing Desk，以下，AWD），②インターナショナルランゲージカフェ（International Language Café，以下，ILC），③学修支援セミナーを開催している。

①と②は LC の設置目的の「学生が多様な文化に触れ，国際的な視野で最適な情報を収集し，自らの社会的な役割を認識しながら，活動する現場・地域における問題解決に活用できる能力の向上を支援する」，③は「おもに学生の授業外学修を支援しアクティブラーニングを促進する」に基づいて，学習コミュニティ支援室が担当している。2021年 9 月時点において，①から③のサービスはすべてオンラインのみで実施している。

1）AWD

AWD は，研究活動に関わる論文や発表資料，および就職や進学にかかわるエッセイなどを対象とした文章作成支援で，2015年度から継続している[3)]。当初は英語の文章のみを対象としたサービスであったが，2019年度からは日本語文章作成の支援も行なっている。2021年 9 月現在，英語は前期週 2 日（計 8 セッション），後期週 3 日（計12セッション）を 2 名の講師が分担しており，日本語は通年週 1 日（計 2 セッション）を 1 名の講師が担当している。サービス開始時より，一対一ないし一対多の対面形式で指導が行われていたが，2020年度から感染防止のためにオンライン化した。

サービス周知は，年度始めと月初のスケジュール周知の他，週に 2 回程度，短期的な空き情報や複数コマのアレンジなどの案内，また予約申込の締切日をメールの一斉送信にて連絡している。

2）ILC

ILC は，本学在学中の外国人留学生をチューターに迎え，英語でコミュニケーションをとる練習の場と機会を提供するサービスである。2017年度の開始当時から，1～3 名の留学生が週 1 ～ 2 時間程度，対面でのカフェタイムを担当していたが，コロナ禍により2020年度からオンライン開催に変更した。

サービス周知は，開催前日と当日に案内をメールで送信しており，チューターからの参加者へのメッセージや，カフェで取り上げる話題を週替わりで掲載している。

3）学修支援セミナー

学修支援セミナーは，学生及び教職員を対象とした各種セミナーの総称で，年度ごとにおよそ10回程度開催している。2019年度まではすべて対面で開催していたが，2020年度からオンライン開催に変更した。2020年度はコロナ禍による開催中止が多かったため，コロナ禍前後の2019年度と2021年度のセミナー一覧を掲載する（**表 1**）。

周知については，セミナー開催前はメールと学内掲示物（ポスター等）で，募集定員に達するまで案内を繰り返し行い，セミナー終了後は当日の動画を web なでしこにて公開している。

3．学修支援における課題

本学における学生支援は，教務・学生課の「何でも相談窓口」を筆頭に，学生たちが大学内外で直面する多種多様な問題に対応するため，ルカの窓口を通じて行われている。ルカの窓口のリーフレットのデジタル版は，学内限定ウェブサイトの「学生支援・アドバイザー」アイコンの中のリンクからダウンロードできる。また，新入生の入学時と，学術情報センター内にて随時，印刷物が配布されている。

こうした窓口を設置して利用者を待つプル型の支援には共通する課題がある。困難を抱えた利用者が自発的に窓口へアクセスすることがサービスの前提となり，相談

表１　学修支援セミナー一覧（2019年度，2021年度）

・2019年度

セミナー名	実施内容	日　時
日本語 AWD セミナー	（１～２クール）学部生を対象に，メールからレポートの書き方へと段階的に学ぶ（３クール）大学院生を対象に，ブレインストーミングからアウトラインを作成して自身の考えをまとめる方法を学ぶ	４月23日～７月16日
アート・ワークショップ	講師の指導のもと参加者が紙版画を作成	８月３日
国試 WEB 活用ガイド（学生向け）	各自が実際に端末を触りながらアプリケーションの使用方法を確認	９月12日
「R」を使った統計基礎講座	Ｒを用いてできる基礎的な計算・使い方の講義	８月29日
NVivo 講習会（１）Nvivo のはじめ方	Nvivo の基本的な使い方の説明	10月24日
NVivo 講習会（２）逐語録の分析方法	逐語録を作るために必要な操作を実演しながらの説明	10月24日
論文執筆のための著作権講座	著作権を守って論文を書くことの意義の説明と，正しい引用についての練習問題	12月23日
PF-NOTE 利用セミナー（１）	プレゼンテーション練習をスマートフォンで撮影し，フィードバックをもらうためのセッティングの説明	10月３日
PF-NOTE 利用セミナー（２）	学校での救命活動演習で使用するためのセッティングの説明と相談対応	11月14日

・2021年度

セミナー名	実施内容	日　時
研究倫理・剽窃防止セミナー	研究不正防止のため，剽窃と正しい引用について学ぶ	７月18日，19日
Nvivo 講習会	Nvivo の基本的な使い方の説明	７月26日
日本語アカデミック・ライティング道場（全６回）	ディベートによる論点整理の後，アウトラインを作成して自身の考えをまとめる作業とフィードバック	８月16日～９月２日
「R」を使う統計セミナー（基礎篇）	Ｒを用いてできる基礎的な計算・使い方の講義	８月25日
「R」を使う統計セミナー（応用編）	Ｒを用いて論文で使用される統計処理を再現する演習	８月25日
「SPSS」の使い方	SPSS を用いてできる基礎的な計算・使い方の講義	９月１日
国試 web 活用ガイド（教員向け）	アプリケーションの使用方法と manaba 連携を確認	７月31日
インターナショナル・ランゲージカフェ・プレゼンテーション（全２回）	外国人留学生チューターによる自国の看護環境や文化にかんするショートプレゼンテーション	10月21日，11月２日
哲学カフェ	哲学対話により「考えることを考える」きっかけを得る	11月４日

場所の存在と種類を把握していないと利用できない点である。学生を対象としたLCの利用調査[1]と同様の調査を2021年度にも実施したが，その結果（回答率：16.7％），学習コミュニティ支援室の学修支援サービスや窓口の存在を6.3％の回答者が認知しておらず，22.2％が「利用の仕方がわからない」と回答した。また，7.1％の回答者が「LCを知らない」と回答している。

したがって，学修支援サービスは，内容の充実や利用のしやすさの改善もさることながら「存在を学生に知ってもらうこと」がきわめて重要であり，きめ細やかな周知とともに運用されなければならないといえる。

Ⅲ．学修支援サービスのオンライン化

１．コロナ禍以前に見られたオンライン化への壁

AWDや学修支援カウンターでの相談には，コロナ禍以前からオンラインでの開催を希望する声が寄せられていた。遠隔地に在住しているために学内で行われるサービスを利用することが難しい，勤務があるため開催時間に合わせにくい等，おもに社会人学生の実情に即した要望があった。

しかしながら，コロナ禍以前には，全学的にセキュリティが保たれた遠隔会議システムが使用できる体制になかったこと，回線やデバイス等の接続環境を整えられない利用者に対して公平性を欠くとされたこと，PCを介してリアルタイムで文章等を修正する指導が困難とされたことなどの理由から，接続テストやツール選びなどの準備は進めていたものの，オンラインでのサービスを開始するまでは至らなかった。

ところが，コロナ禍によりオンライン授業が開始されたことで，本学ではGoogle Workspace for EducationによるGoogle Meetに加え，有料版のZoomが利用可能になった。また，学生がオンライン授業を受講できる接続環境を自身で整えざるを得なくなったため，利用者間の不公平感が解消された。さらに，継続する感染不安の中，対面でのサービス再開に具体的な目処が立たないことから，指導の難しさを踏まえてもオンラインでサービスを継続したほうがよいという担当講師からの理解も得られた。

以上を経て，2020年度にはAWD，ILC，学修支援セミナー，2021年度には前述のるかこデスクのオンライン開催を開始した。

2．学修支援サービス窓口の変化

「るかこデスク」を開始して５ヶ月間で，前年度の「学修支援カウンター」相談よりも相談件数が増加した（表２）。

表２　学習支援カウンター相談とるかこデスク相談件数（2019－2021年度）

年度	2019	2020	2021
学習支援カウンター相談	153	58	48
るかこデスク	－	－	78

＊2021年度は8/31までの数値

この間のるかこデスクの利用者のうち，多くを占めたのは，「情報処理演習」の受講者であった。2020年度より学部１年生の必修科目となった授業「情報処理演習」のうち，前期の７回分を，学習コミュニティ支援室の職員２名で担当している[2)]。PC に不慣れな学生や ICT スキルに不安のある学生について，「情報処理演習」では，授業外でのるかこデスクの利用を積極的に推奨し，課題に取り組ませた。

各自が自身の PC を持参して参加するこの授業は，メールの書き方に始まり，Microsoft Word，Excel，Power-Point を使ったドキュメントの作成方法，文献の引用の仕方，文献リスト作成等，大学で求められるレポートや論文等の作成に必要な知識とスキルを，小レポートの作成をしながら順を追って習得できる内容となっている。

るかこデスクでの相談はオンラインか対面かを選ぶことができるため，ハイブリッド授業が行われている状況においても学生が都合のよい方を選択できる。また，原則として個別相談になることから，個人的なつまずきに焦点をあてて対応でき，確実に解決できる点も情報処理演習の授業内容と相性がよかった。補習を行う場所としてるかこデスクを積極的に接続した結果，授業関連の相談で55件の利用があった。

3．オンライン化前後の学修支援サービス利用状況の比較（2019年度～2021年度）

オンライン化前後の比較のために，コロナ禍以前の2019年度とそれ以降のサービス状況を示す。

1）AWD

AWD は2019年度まで対面のみで行っていたが，2020年度以降はオンライン化した。その結果，明確な利用減が見られる（表３）。

減少の理由として，コロナ禍が原因のものと，サービスの実施形態によるものが考えられる。

まずコロナ禍が原因のものについては，感染状況の悪化と状況改善の明確な見通しが立たないことによる，海外での国際会議や短期留学の中止および参加の差し控え，海外の大学院への進学・医療機関等への就職にかかる渡航が断念され，AWD のニーズが減少したことが考えられる。また，医療現場の逼迫により，社会人学生の勤務時間の増加，また，厚生労働省からの医療機関への支援要請等の影響で，論文執筆に取り組むことのできた学生数が減ったと考えられる。

次にサービスの実施形態によるものについては，オンラインでの指導に入念な事前準備が必要になるため，講師陣からのリクエストにより相談対象となる文書送付の締め切りが以前より早くなったことが挙げられる。対面での実施時は空きがあれば当日の飛び入り相談も可能であったが，オンラインへの変更後は予約申込の締め切りが実施日の１週間前になり，相談用の文書を添付しないと申し込むことができないようにした。

表３　AWD の実施状況（2019－2021年度）

年度	2019	2020	2021
開講数	451	411	157
利用数	389	242	75
利用率	86％	59％	48％

＊2021年度は8/31までの数値

2）ILC

ILC も AWD 同様，2019年度までは対面のみ，2020年度以降はオンラインのみで実施している。ILC は日本国内でのアルバイトが可能になる手続きを済ませた留学生を雇用しなければならず，2020年度はコロナ禍で留学生の来日が遅れていたため後期からの開催となった。2021年度も同様の理由で求人の調整に時間を要して５月末からの開催となった。

2020年度は対面時よりも１回あたりの利用者平均数が落ち込んだが，2021年度は対面時よりも増加しており（表４），オンラインでの実施が定着するにつれて，交流のハードルが下がってきたように見受けられる。

表４　ILC の実施状況（2019－2021年度）

年度	2019	2020	2021
開催数	105	13	17
利用者数	103	9	29
１回あたりの利用者数（平均）	0.98名	0.69名	1.70名

＊2021年度は8/31までの数値

3）学修支援セミナー

学修支援セミナーも，2019年度まではすべて対面・集合形式で行い，事後に撮影したセミナー動画をオンデマンドで配信していたが，2020年度以降はすべてオンラインでのライブとオンデマンド双方で配信する方法で開催している。年度により開催するセミナーの種類が異なるため，2019年度から2021年度の間に共通して開催したセミナー２種を例に参加者数の比較を行った（表５）。

ILC と類似の傾向が見られ，2020年度には利用が落ち込んだものの，2021年度には対面形式の2019年度よりも参加者数が増加している。LC 利用調査においても97.6％の参加者が引き続きオンラインでの開催を希望している。

表５　学修支援セミナー（３年連続で開催のもの）の参加者数推移（2019－2021年度）

	2019	2020	2021
「R」を使った統計基礎講座	36	27	45
Nvivo 講習会	24	19	44

Ⅳ．オンライン化による学修支援サービスの改善点と課題

学修支援サービスのオンライン化により生じた改善点と課題をまとめると次のようになる。

１．改善点

オンライン開催は，サービスの利用者側の立場に立つと，遠隔地に住む，あるいは働きながら学ぶ学生のニーズに合っており，参加の機会を増やしたといえる。

サービスの提供者側から見ると，以下の３点が利点としてあげられる。１つめに，メールや Google ドライブ，遠隔会議システム内のチャット等を通じた資料の受け渡しが容易で，ペーパーレス化が推進された。２つめに，セミナーの記録が容易になった。遠隔会議システムで実施すると，録画したファイルの容量に比して解像度がよい。また，編集が容易で，ライブ配信後に間をおかずにオンデマンド教材として提供できる。３つめに，個別相談においても，遠隔会議システムで利用者の画面を共有しながら行うことでソフトの操作方法のサポートが容易になった。バージョン情報や OS の照合等，ソフトや PC にかんする知識がない利用者にとって難しい事項の確認に手間取ることがなく，トラブルの対処にかかる時間が短い。また，相談メンターの指示にしたがい，利用者自身が日常的に使っている端末を操作するので，技術を習得しやすい。

２．課題

AWD のオンライン化は，相談当日に接続する場所を選ばないことで利用者の幅が広がった一方で，相談対象となる文書の提出から相談までに一週間を要することにより，利用者は執筆にさらなる計画性が求められるようになった。とくに，学部生が短い期間でまとめる授業のレポート等で利用しにくくなっていると考えられる。したがって，感染状況等の改善により対面での開催が可能になった場合には，オンラインと対面の選択制に変更できるとよい。

また，学修支援セミナーは，オンライン化によって参加申し込みが以前の約２～３倍になった。ただ，実際の参加者数はおしなべて申込者数の６～７割程度に止まっており，従来の募集定員の設定では，申し込みをしながら参加しない人で枠が埋まる傾向がある。そのため，本当に聴講したい人を取りこぼさないために，講義形式の場合は，募集人数を当日接続可能な人数の限界に設定するなどの対策を行なっている。一方，参加者と対話して進める双方向形式の場合，募集人数の設定が難しく，当日の参加者が多すぎて進行が滞るケース，必要以上に人数が減ってしまうケースが既に生じている。以上のことから，セミナーの内容や形式に応じて申し込み手続きの方法に工夫が必要である。

さらに，2019年に開催した「アート・ワーク・ショップ」のように，一般家庭にはない特殊な画材を使用する，参加者の制作物に講師が直接手を加える指導があるなど，オンラインでの実施が難しい種類の催しも存在している。そのため，セミナーやワークショップの完全オンライン化を前提とするのではなく，感染状況等と各催しの特性に応じて，対面と比較し最適な方法を検討して計画を立てることが求められる。

Ⅴ．おわりに

コロナ禍により，学習コミュニティ支援室では，2020年度より学修支援サービスのほとんどをオンライン開催に変更した。その結果，2021年度は８月までの集計で対面のみの2019年に比べ，AWD の利用者数は継続して落ち込んでいるが，学修支援セミナーの利用者数と ILC の利用者数の平均は2019年度よりも増加している。

また，2021年度より，学習コミュニティ支援室設置の窓口「るかこデスク」もオンラインと対面併用での相談を開始した。その結果，対面のみで相談を受けていた2020年度以前より利用者数が増加した。これは「情報処理演習」と意図的に接続する取り組みを行った成果でもある。

学修支援サービスのオンライン化はコロナ禍以前から要望があり，サービスがオンライン化したことに対する不満が寄せられたことはない。しかしながら，AWD の利用が減少していることや，対面ならではのワークショップが存在している。今後も感染状況の変化とサービス内容に応じて，オンライン，対面，あるいはその併用など，適切な実施方法を検討していきたい。

引用文献

１）松本直子，藤田寛之，佐藤晋巨ほか．聖路加国際大学ラーニング・コモンズの学修支援サービス．聖路加国際大学紀要．2019；5：116-21.
２）松本直子，川口嘉奈子．看護学部の初年次教育における情報リテラシーの授業の再構築．聖路加国際大学

紀要．2021；7：136-41.
3）Barroga E, Inoue M, Fujita H, et al. The Academic Writing Desk of St. Luke's International University: providing increasing mentoring support in the areas of academic research, writing, presentation, and publishing. Bulletin of St. Luke's International University. 2017；3：34-40.